

平成 27 年度 南三陸町総合戦略推進会議 (第 3 回)	
日 時	平成 27 年 10 月 6 日 (火) 18:30~21:30
場 所	南三陸町役場庁舎 2 階 大会議室
次 第	1 開会 2 挨拶 3 情報提供 ・震災復興計画の主な事業の進捗状況について 4 審議等 1) 総合戦略の構成について 2) 基本目標について 5 その他 (事務連絡等 (次回日程、他)) 6 閉会 <資料> 「第 3 回会議次第」 資料 1 「復興計画の主な進捗状況」 資料 2 「南三陸町 総合戦略アウトライン (案)」 資料 3 「基本目標のつながりのイメージ図」 資料 4 「基本目標の例」 資料 5 「総合計画改定に伴うヒアリング結果」 資料 6 「参考資料」 <その他資料> 「乳幼児等医療費に対する援助の実施状況<市町村>」 「取り組みアイデアとなるキーワードを示したメモ」 「(1) 総合計画改定に伴う団体ヒアリング結果 (2) 子どもへのインタビュー結果」 「学力の経済学 (要約)」
出 席	委員 (敬称略): <出席: 14 名> 小野寺邦夫 (産)、高橋未来 (住)、伊藤孝浩 (産)、渡辺公子 (住)、 高橋直哉 (産)、稲本都志彦 (産)、甲斐茂利 (金)、安藤仁美 (住)、 及川美香 (産)、小山祥子 (住)、佐藤克哉 (産)、重富裕昭 (言)、 齋藤めぐみ (住)、最知明広 (官) <欠席: 2 名> 小野寺さとみ (労)、佐藤太一 (学) 事務局: 3 名 (檀浦室長、太齋係長、畠山主査) 事務局補助 (南三陸町復興まちづくり支援事務所): 6 名 傍聴: 6 名 マスコミ: 2 名

第 3 回 南三陸町総合戦略推進会議 会議録

< 1. 開会 >

< 2. 挨拶 >

会 長： 前回（第 2 回）は私用にて欠席しましたが、後日会議録を熟読させていただきました。色々な意見が出ていて、非常に活発な会議だと感じました。町としても様々な施策を打っています。子育てについては特に力を入れている分野ですので、色々な面で支援できると思っています。

- ・事務局より、本日の進行及び資料の確認を行った。

< 3. 情報提供 >

- ・事務局より、資料 1「復興計画の主な進捗状況」の説明を行った。

< 4. 審議等 >

1) 総合戦略の構成について

事務局： 今、説明した事業の中で、人口減少に対応するものに関しては総合戦略に入ることになります。それ以外にも、これから皆さんから意見をいただきつつしていく施策もあります。民間でできることは、民間で行っていく方針もあると思います。

委員： これらの事業は全部予算がついているのですか。

事務局： 中には予算を計上していない事業もありますが、職員の人件費を含めて考えれば全て予算がついています。子育てに関しては、今年度 4 月から保育料を他所の市町村よりかなり安くしています。また、9 月からは医療費を、これまで中学生まで無料だったものを高校生までにしました。まだ所得制限があるので、所得の高い方は受けられないことになっています。他所の市町村に比べると拡充されているものもありますので、そのようなものを総合戦略の中に入れ込み、アピールしていくことが重要だと思っています。

本日の主題となる資料 2「南三陸町 総合戦略アウトライン（案）」の大枠を確認いただきます、一つは構成としてこの形でよいかどうか、もう一つは基本目標について皆さんにしっかりと議論していただく必要があります。

資料を開いていただくと、「I 基本的な考え方」があり、その中に「1. 策定の趣旨」、「2. 目的」、「3. 計画期間」等があります。この構成を土台に、どのようにして南三陸らしさを味付けするかということでも話を進めていいのか、あるいは構成自体がこれでいいのかが第一の検討項目になると思います。

「1. 策定の趣旨」は、国の総合戦略あるいは人口ビジョンが前提にあり、地方にもつくってくださいという話がきっかけで、本町でも人口ビジョン、総合戦略の策定に着手しました。

「2. 目的」としては、国が何を言おうが、この町としてどのように生きていくのか、どのように持続的なまちづくりをしていくのが問題ですので、人口減少に対応しなければいけないということを示しています。その課題に立ち向かいつつ、持続可能な地域をつくるのが目的になると思います。

「3. 計画期間」は 5 年間です。今年度から平成 31 年度までになります。5 年後は、第 2 次総合戦略を策定することになると思います。

「4. まちの将来像と計画の位置づけ」は、町の計画の一番上位となる「総合計画」において、平成 28 年度からの次期計画を現在策定中ですが、「森里海ひといのちめぐるまち 南三陸」というまちの将来像が決定していますので、総合戦略でもこれを目指していきます。下の図は、総合戦略は総合計画の中に包含されることの確認です。先ほど説明した事業の中からも、総合戦略の中に取り入れますし、総合戦略で新たに実施する事業についても、総合計画に反映される関係になります。

「5. 推進体制」は、以前ご説明したとおりです。

「6. 客観的な効果検証の実施について」は、この会議自体が計画の審議とともに推進状況の確認をする場として位置付けていますので、皆さんにはこれからも年に 2～3 回ほど集まっていただき、その都度進捗を確認して、意見をいただきます。

「Ⅱ 達成すべき目標」は、「1. 南三陸町人口ビジョンを踏まえた達成目標」で説明しているとおりです。町としては、出生率の上昇とともに、転出超過の解消を目指します。その場合の実現すべき人口目標は中段に記載していますが、前回ご説明したとおりになります。これは長期の目標ですので、5 年後、総合戦略の計画期間における目標は、一番下の方に合計特殊出生率と転出超過の数を記載しました。この数字は現状から 2030 年の目標まで、毎年直線的に達成していくと仮定した時に、5 年後はここまで達成していないといけないという数字です。合計特殊出生率に関しては、現状の 1.15 から、1.40 を超える回復を目指します。転出超過に関しては 260 人未満。昨年度実績では 416 人のマイナスですので、ここから 260 人未満を目指していくことになります。

「2. 基本目標」は、国の目標をそのまま記載したものが（「まち・ひと・しごと創生総合戦略の政策パッケージ」）になります。これをそのまま市町村の基本目標にも適用するのが一番スタンダードです。

中ほどの「本町の地方創生に係る基本方針」は、第 1～2 回の会議で議論いただいたものです。このままの表現では掲載しないことを決めましたので、言い換えた形で載せる必要があります。

その下に、「スタンダード案」と書いてあります。これは最も多くの市町村が採用する案になると思います。この「スタンダード案」で皆さんに納得していただければ一番簡単ですが、本当にこれでいいのかということもあります。

更にその下には、「代替案のたたき台」とあり、事務局で検討した案を記載しています。この「代替案のたたき台」でいいかどうかを議論していただくことになると思います。

次が、4 つの基本目標についてそれぞれ、「基本的方向」と「成果指標」、「目標値」が国から提示されていますが、成果として具体的にどのような目標が必要かを検討することになります。これは、国からの予算を得るためという意味もありますが、それよりは町として進めるべき取り組みであれば、当然目標を置く必要があります。

その次ですが、具体的にそれぞれの基本目標を達成するための施策が、先ほどの震災復興計画の中に掲載されているものも含めてここに並びます。この施策を実施すると、この基本目標が達成されるという構成にするのが一般的です。

委員： これは、国に提出するための資料の構成ですか。

事務局： 町の総合戦略としての構成です。これが正式版になりますので、皆さんの了承を得られればそのまま町民へ公表します。

委員： 文字ばかりで分からないので、デザインを工夫して図等を入れて分かりやすくした方がいいと思います。

事務局： 本編を少し分かりやすくした A3 で 2 枚くらいの概要版をつくれなかと考えています。本編自体にもできるだけ分かりやすい図等を入れ込むことを検討したいと思います。

委員： 文章が少し堅いです。子どもでも分かるくらいに目線を下げた方がいいと思います。

会長： 概要版でそのようなものを作成したらどうでしょうか。本編が冊子として渡されても一般の人はなかなか見ないと思います。本編をくだけたものにするよりは、その方が分かりやすくいいと思います。

委員： 2 部構成のイメージですか。ただし、概要版と言っても紙と字が小さいだけというのがよくあるケースなので、概要版をしっかりと作成するのであれば、別物とは言いませんが、割り切ってシンプルにした方がいいと思います。

事務局： 概要版は見やすくかつ分かりやすく、本編も当然分かりやすくする努力はします。皆さんが読んで分からないところは、指摘いただければ対応したいと思います。

委員： まちの将来像が「森 里 海 ひと いのちめぐるまち 南三陸」なので、山際ではこのような活動が行われ、それがこのような活動に伝わる、里ではこのような活動、海ではこのような活動が行われ、皆はこのように暮らすといった「めぐる」の部分を表現したいです。

事務局： 基本目標 4 をどのように表すかということにも繋がる気がします。もう少し根底のものとして位置づけましょうか。

委員： まちの将来像があって、「地域の魅力あるしごと」、「未来を拓く人々が集う」、「次世代を担う子どもたちが育つ」に繋がり、それが南三陸ならではのインフラになると思っていました。

事務局： 国が示す基本目標の枠組みにとらわれず、分かりやすくすることも考えられます。参考に、基本目標の例として、他市町村で現在公表されている事例（「資料 4 基本目標の例」）を皆さんにお配りしています。宮城県の例は、国のものに近い形で、「安全」が加わったくらいです。2 枚目は県内の他市町村で既に公表しているところと、進行中のところもありますが、それらの事例が載っています。

2) 基本目標について

【スタンダード案】

- 基本目標 1 このまちに根ざした雇用の創出と生業をつくる
- 基本目標 2 若い世代を中心とした移住・定住の流れをつくる
- 基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標 4 時代に合った持続可能な地域をつくり、安心な暮らしを守る

※資料 2「南総合戦略アウトライン（案）」より

【代替案のたたき台】

- 基本目標 1 地域の魅力あるしごとをつくる
- 基本目標 2 未来を拓く人々が集うまちをつくる
- 基本目標 3 次世代を担う子どもたちが育つまちをつくる
- 基本目標 4 いのちめぐる持続可能な地域をつくる

※資料 2「総合戦略アウトライン（案）」より

事務局： 「スタンダード案」でいいという方はいますか。「スタンダード案」であれば、構成としては、国の基本目標と近いものになります。

委員： 「代替案のたたき台」の方が「スタンダード案」に比べると一步踏み込んでいてチャレンジングです。例えば、「地域の魅力あるしごと」では、この町にしかない、特徴のあるものを使った仕事をつくっていくことになります。通常の雇用の向上とは全く違った意味になり、面白いと思います。「未来を拓く」も、クリエイティブな人を生みたいのでしょうか。「スタンダード案」はその他大勢と同じなので、「代替案のたたき台」がいいと思います。

委員： 基本目標は 3 つにした方がインパクトがあり、伝わりやすいと思います。基本目標 4 の「持続可能な地域をつくる」はまちづくりの根幹なので、それをキャッチコピーとして扱い、基本目標は 3 つにするのがいいと思います。

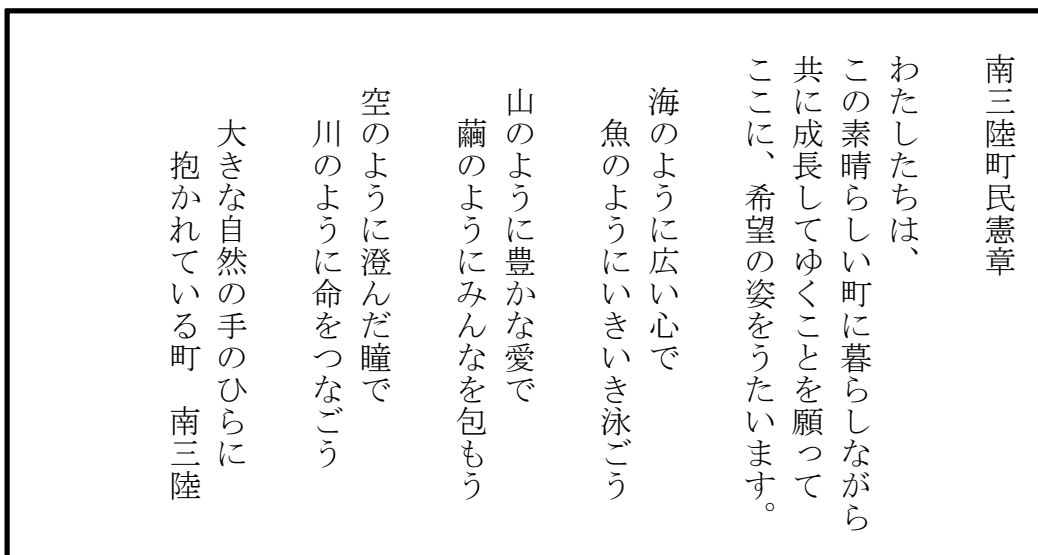
事務局： 先ほどの意見のように、基本目標 4 を根底に流れるものとするにも一致すると思います。

委員： 基本目標 4 を最初にされた方が主張が伝わりやすいのではないのでしょうか。通常は一番言いたいことが最初にくると思います。

- 委員： 国が言っているのは、仕事があれば人が集まる、人が集まれば子どもが生まれるという発想です。これを逆にするという事は、南三陸はもっと新しい着想点で考えるのだということを言っていると思うのですが、何かいい言葉はないですか。
- 委員： 全てが連関しているのです、逆に言うと、人がいれば仕事が生まれるということにもなります。切り口はどこから入っても同じです。
「森里海ひといのちめぐるまち 南三陸」というまちの将来像があり、その実現のために南三陸町が何をするのかということが基本目標になると思います。
- 委員： 私も同じ考えです。この考え方は新潟県燕市の例に近いと思います。まずキャッチコピーがあり、基本目標 4 の位置付けが少し違うと思います。つまり、「いのちめぐる」には色々な要素が含まれているし、持続可能な地域づくりも究極的な目標なので、燕市のようにキャッチコピーがあって、そのためには、基本目標を 3 つにした方が分かりやすいと思います。
- 委員： 南三陸らしさとは何かと聞かれると、連関、つながりです。気候・風土だとか、人だとか、様々な繋がりがブランドになります。
新潟県燕市だと「日本一輝いているまち・燕市」、長野県塩尻市だと「確かな暮らし未来につなぐ田園都市」、京都府舞鶴市では「心豊かに暮らせるまちづくり」となっていて、やはりキャッチコピーが最初に目に入ります。
- 委員： 私も覚えやすいものがいいです。「お・か・し・も」という言葉があります。地震や災害があったら「押さない、駆けない、喋らない、戻らない」というものです。こういう形のを、「い・の・ち・め・ぐ・る・ま・ち」や「つ・な・が・り」でつくるのはどうでしょうか。
- 委員： 「め・ぐ・る」でつくるのがいいと思います。
- 委員： 「お・か・し・も」は幼稚園等でも使用されていて、「イ・カ・の・お・す・し」も警察署で使われています。色々ところで使われているので、子どもたちが混同してしまわないか心配です。
- 委員： 町が何を狙っているのかを、小さい子どもから年配の方まで、共通の考え方ができるようにすると素晴らしいと思います。
- 委員： 簡単に、分かりやすく、短くというのはいいと思います。漢字が多く入っているとそれだけで嫌になってしまうので、平仮名を多くした方がいいです。

委員： 私は町民憲章がすごく好きです。包み込まれるような感じがします。「いのちめぐる」のイメージと近いと思います。町民憲章のイメージを持って、ほっとできる環境で子育てができる場所をつくれるような目標にすると思います。

会長： 町民憲章も、行政主導ではなく町民に募集をかけてつくったものです。とても柔らかい文章になっています。



委員： 私も町民憲章はすごく好きです。まちの風景とか、身近なものに例えて、絵にできるものがモチーフにあると浸透しやすいと思います。

事務局： 基本目標 1、2、3 の成果指標は比較的设置しやすいですが、基本目標 4 になると途端に難しくなります。その点では、基本目標 4 は基本理念とするのも納得できると思います。

委員： 評価しづらいと、1 年後とか 2 年後にうやむやになってしまうので、分かりやすいものにされた方が目標は立てやすいと思います。

委員： 基本目標 4 の「持続可能」とは、インフラや施設が維持可能かどうか、財源があるかどうかという意味合いも含まれているのですか。

事務局： 国が言っているのは、「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」ということです。

事務局： 安全なまちづくりというのは、本町の場合はそれこそ震災復興計画（総合計画）で力を入れているので、敢えて総合戦略に盛り込む必要はないと考えています。

事務局： それでは、基本目標は 3 つにして、基本目標 4 を基本理念という扱いにしましょう。

委員： 「生業」、「移住・定住」、「結婚・出産・子育て」の 3 つの柱になりますね。「代替案のたたき台」の基本目標 1、2、3 をベースに、後は表現の調整になると思います。

事務局： では、「代替案のたたき台」をベースに検討を進めていきます。

●基本目標 1 について

事務局： 先ほど、「地域の」という表現がいいという意見を頂きました。

委員： 先ほどのあいうえお作文調がいいのか。それとも、いきなり文章から違う言葉を考えていくのか。「め・ぐ・る」で考えるのか。サケや南三陸にゆかりのある生き物で縛る等も考えやすいと思います。

委員： 「地域の」よりも更に踏み込み「地域ならではの」はどうでしょうか。

委員： 仕事をつくらなければいけないですが、その前に特に子どもたちは、仕事を知らなければいけないと思います。漁業一つとっても色々なものがあります。

委員： 地域の仕事をするには、地域そのものを知ることです。地域の気候、風土、文化、歴史等様々なものに繋がることになり、そこはかなり深いと思います。

事務局： 確かに知ることは大事で、この町にどのような資源があるのかを知らないと仕事はつukれないと思います。

委員： 誇りを持って仕事ができることを表現するには、某建設会社の「子どもたちに誇れるしごとを。」のようなニュアンスがあるとしっくりくると思います。
「つくる」というよりは「やる」です。やりたいよねということです。

委員： 基本目標 2「未来を拓く人々が集うまちをつくる」の基本的方向にある「移住・定住にとらわれない「南三陸コミュニティ」を拡大する」というフレーズはいいと思います。元々南三陸町に住んでいたけれども、今は町外にいる人たちも南三陸の仲間として意識したいです。「まち」と呼ぶと自治体単位の町と同じなので、「コミュニティ」や「つながり」等、別の言葉がいいと思います。

委員： 「めぐる」というのは、現在の時間の中だけでめぐるのではなく、時間軸として過去から未来へ繋ぐことも一つだと思います。

委員： 基本目標自体に数値的な指標を入れるといいと思います。例えば「おらほのまちのしごとを倍増させる」はどうでしょうか。

- 委員： 「地域ならではの魅力あるしごとをつくる」は、今まで無かった仕事を創出するという意味合いばかりが強いです。「地域ならではの魅力あるしごとをつくり、輝かせる」のように、今ある仕事、価値ある仕事を掘り起こし、輝かせていく意味合いも込めたいです。「地域ならではの魅力あるしごとを輝かせる」としても、「つくる」という意味合いも含まれると思います。
- 委員： この目標の主語を確認したいと思います。「知る」はそれぞれが主語になると思いますが、「まちをつくる」は行政や大人が行う印象です。
- 委員： それぞれが当事者であることを表現するために「私たちは」を入れましょう。そうすると、述語は「つくります」のようになりますね。
- 委員： それぞれが当事者であるという意識を持ってつくれば、拘らなくていいと思います。インパクトのあるフレーズにする方が響くと思います。
- 委員： 主語を入れた方が分かりやすいと思います。「私たちは」とあれば、読んだ人が当事者になります。
- 委員： そうすると、基本目標 3 は、「まちをつくる」ではなく、例えば「私たちは次世代を担う子どもたちをみんなで育てます」ということでしょうか。
- 委員： 当事者意識を強く印象付けたいのであれば、「私たちが」にするといいと思います。
- 委員： 住民の皆さんの覚悟が伝わるいい言葉だと思います。また、国としてもありがたいことだと思います。国民の意識や気質の変化が感じ取れます。
- 委員： 「私たちが〇〇します」ですと、閉鎖的に聞こえるかもしれません。
- 委員： 一緒にやりましょうというニュアンスがあるとしっくりくると思います。
- 会長： 移住・定住を促進することが目的の一つですので、「私たちが」は強すぎるかもしれません。
- 委員： 「次世代を担う子どもたち」は、「次世代＝子どもたち」というように意味が被っています。「次世代」ではなく、「まちの未来」の方が適切だと思います。

委員： 基本目標 2「未来を拓く人々が集うまち」は、対象とする世代を限定している感じがします。若い世代を中心とした人たちに来てもらいたいという意味合いを込めなくてはいけないということでしょうか。

事務局： 前回議論したとおり、今回の総合戦略ではそうなります。

委員： 私も同じことを考えていました。その他資料のうちの「子どもへのインタビュー結果」を見ると、小中高生のコメントの中でまちのよいところとして共通している要素が、人と人のつながりや自然の豊かさとなっています。今ある南三陸の魅力をどれだけ知り、それを大事に残していけるかも外から人を呼び込むために重要な要素ですが、今の基本目標では既存のものや人をどう活用するかという視点がありません。

高齢者も重要なコミュニティの担い手であり、子どもを育てる重要なサポーターとなります。そのような方々も大事にして戦略を考えてもいいと思います。

委員： 年配の方が読んで失望する可能性も考えないといけないと思います。

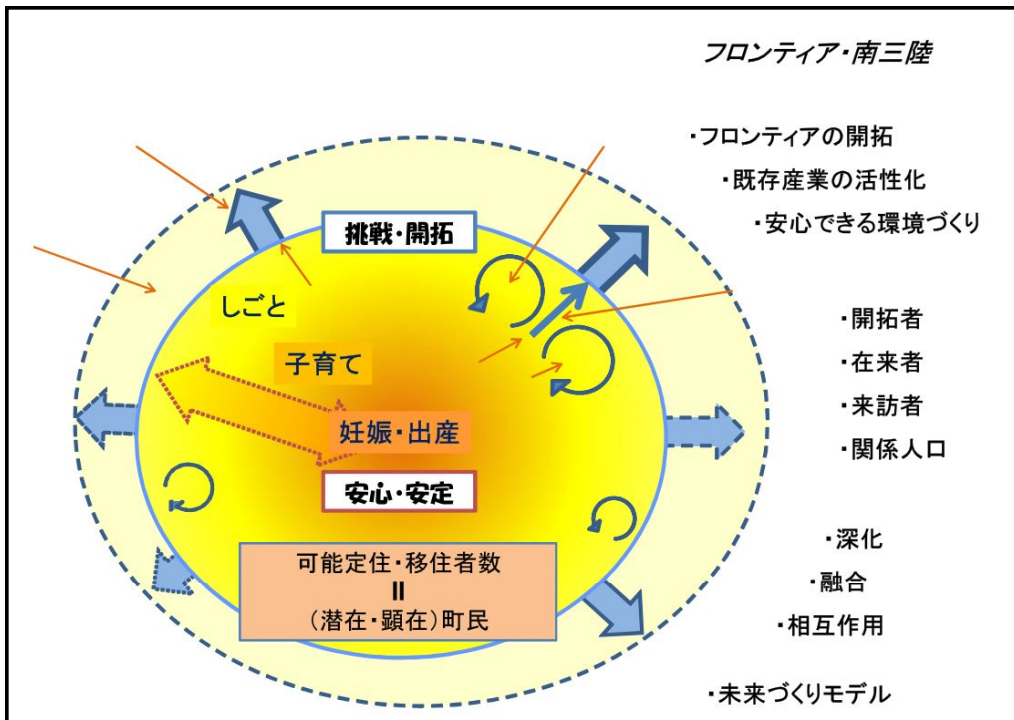
委員： 基本的方向の中に、世代を超えて、ベテランの人たちが魅力ある仕事に知恵を授けるとか、未来を拓く人々が集まるためのプラットフォームを用意するというフレーズを入れておくといいのではないのでしょうか。

委員： 森、里、海、川、山等、南三陸町には色々な仕事があります。今ある仕事も生かされますし、その中にはこれまで年配の方々がつくってきた仕事もあります。若い世代に対して教えられることもたくさんありますし、私は年配の方も含めて考えていると思います。つなげていくということは、上の世代があつてこそのことです。

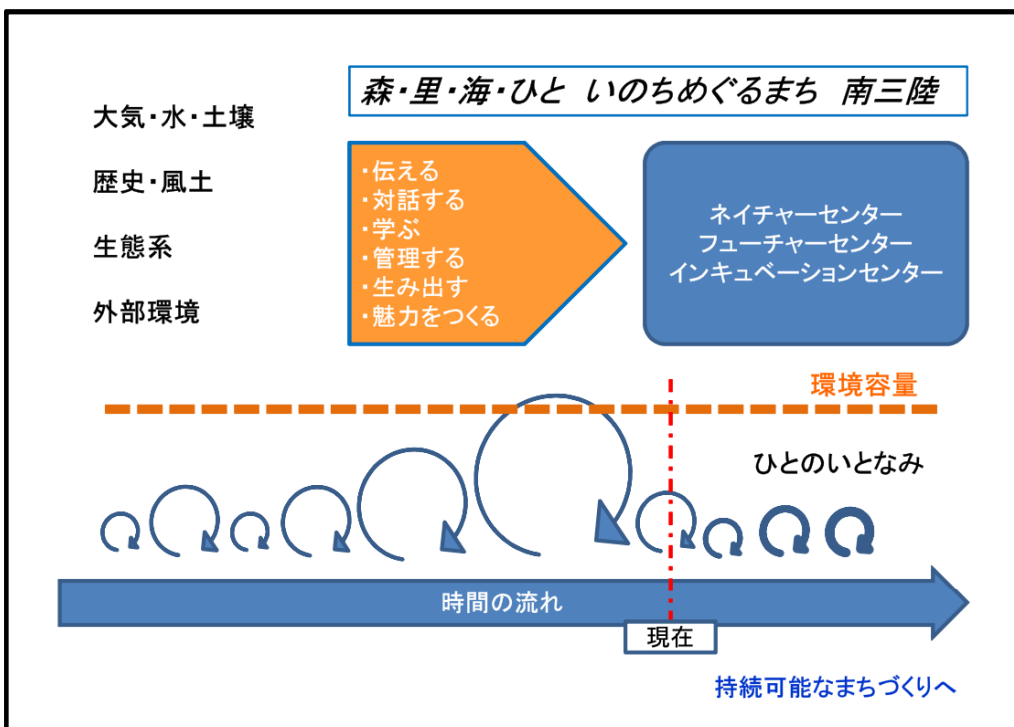
委員： 生業にはそのような歴史的な背景があり、年配の方がいて、現役の方がいて、これからの担い手育成につなげていく。新たに町外から呼び込む人については、若い世代にフォーカスし、彼らに子どもを生んで育ててもらいたいという流れになると思います。

委員： 「未来を拓く」のイメージは若者ですが、未来を拓く気持ちがあれば中年でも高年でも構わないということが伝わるようにすると思います。「家族」と書いて「まち」と読ませる等、色々な世代の人たちがそこにいるということが伝わると思います。

委員： 「町」と書いて「かぞく」と読ませるのはどうでしょうか。



※資料 3 「基本目標のつながりのイメージ図」 より



※資料 3 「基本目標のつながりのイメージ図」 より

事務局： 基本目標 1、2、3 と、基本目標 4 がどのように繋がっているかをイメージ図（資料 3「基本目標のつながりのイメージ図」）を使用して整理します。実線で囲まれたゆで卵のようなものが今のまちのイメージです。真ん中に近いほど、「安心・安定」になり、外に行くほど「挑戦・開拓」になります。真ん中に「安心・安定」があるから妊娠して出産ができます。ここをしっかりと取り組んでいく必要があると思います。子育ては、「知る」という話もありましたが、仕事との関係の中にあるものだと思います。仕事をつくることは、新しく開拓していくイメージだと思います。

そして、ぐるぐる回っているものが今のまちの仕事のイメージです。これもしっかりと回していく必要があります。新しい人や考えを取り入れることにより開拓され、今のまちの枠が広がります。新しい概念、技術、考え方を取り入れることで新しい仕事が増え、それが既存の仕事を活性化させるということです。この枠が広がるのが人を呼び込むことであり、この町で働く人を増やすことに繋がるという考え方です。

下の図は、基本目標 4 のイメージです。過去から連綿と続いてきているものです。その時間の流れの中で、例えば人口を考えて、それが縮小に向かっていますというものです。一方で、この町で生きていく上での上限となる容量があり、それを超えた時には、例えば、ギンザケで海が汚れるような話がかかります。それも意識しないと、持続可能ではないということです。今は小さくなっているけれども、このグルグルを太く強くしていくことで、持続可能な地域ができるというのがこの図の意味です。基本目標 1、2、3 と基本目標 4 のそれぞれの整理を統合できるのではないかとイメージになります。

基本目標には、「私たちは」を加える方がいいということでしょうか。

委員： 「私たちは」では一般的過ぎます。それよりも、「未来を拓く人々が集うおらほのまちをつくる」等、「おらほの」とするといいと思います。

委員： 「地域の魅力あるしごとを 100 つくる」とすると目標として分かりやすいです。

委員： ビジネスマンの目標みたいです。業務ならば数値目標がある方がいいですが、敢えて無い方が「おらほ」感は強調されると思います。

事務局： 基本目標には数値は入れないようにしましょう。主語はどうしましょうか。「おらほの」にしますか。もしくは「私たちは」にしますか。

委員： 一長一短があります。「おらほの」とすると地域感は出ますが、それこそ意味が伝わらない可能性があります。先ほどの「私たちが」のように閉鎖的に聞こえるかもしれません。

- 委員： 町の人たちに対しては「おらほの」と表現し、町外の人たちに対しては「私たちは」と表現するのはどうでしょうか。
- 委員： 町外の方々から、ここは「あなたたちの地域のことでしょ」と受け取られてしまうところをどう摺り合わせるのかです。先ほどの資料 3「基本目標のつながりのイメージ図」で考えると、南三陸の魅力の一つは、外側の形成層の部分で化学反応を起こしやすいことです。融合して広がっていく外側の部分を、硬い皮質で固めてしまうのかどうか。地域感のある言葉を主語にした場合、ガチッと固めてしまうことになりません。
- 委員： 町に来て始めて「おらほ」と聞いた時に、「おれのもの」という印象を受けました。
- 委員： 私も同じように感じました。何か入りにくい印象を受けました。
- 事務局： 「私たちは」を加えましょうか。もしくは、主語はなしにしましょうか。
- 委員： 加えた方がいいです。
- 事務局： 「地域ならではの」はどうでしょうか。
- 委員： 対象を拡げるのであれば「地域の」の方がいいと思います。「地域ならではの」ですと地域限定という印象を受ける可能性があります。
- 委員： 「つくり」を入れると長くなるので、「地域の魅力あるしごとを輝かせます」としてはどうでしょうか。「輝かせます」には創出と発展という意味合いがあります。
- 委員： 今ある仕事も尊重している印象を受けます。
- 委員： イノベーションがない印象を受けます。「つくる」を漢字で、創造の「創」にしてはどうでしょうか。
- 委員： 「創り、輝かせます」ですと、つくったものだけを輝かせることになります。
- 委員： 「魅力」と「輝く」が同じ意味合いに感じます。

委員： 「しごとを創る」と言うと、非常に簡単に聞こえてしまいます。仕事というのは、創出しそれを発展させる（輝かせる）プロセスがすごく長いものです。それを敢えて地道に愚直に行うということを発信するのであれば、「地域ならではの」もいいですし、「魅力あるしごとを生み、育て、輝かせる」とすると、一層イメージがはっきりすると思います。子どもを生み育てることと同じように、仕事も愛しんでいくということです。アイデアはたくさん生まれています。生まれたアイデアを大切に、皆で協力して育て、輝かせようというニュアンスがあるといいと思います。

委員： キャッチフレーズは短い方がいいと思います。

委員： 「仕事」という漢字にルビを振り「ちから」と入れてはどうでしょうか。その「ちから」には色々な魅力や元々持っている可能性、歴史、背景、人等色々なものが宿ります。例えば、「私たちは、地域の仕事（ちから）を輝かせます」はどうでしょうか。「魅力ある」は「仕事（ちから）」に包含されます。

委員： 主語が「私たちは」なら、述語は「輝かせます」の方が、創出した仕事を皆で盛り上げていくというニュアンスが出ていいと思います。

委員： 「仕事」は漢字で、「ちから」がいいです。

委員： その「仕事（ちから）」は、どの程度の規模をイメージしていますか。最近、世の中でよく言われている、地方にある素晴らしい魅力を新しい視点から発掘し、アセットマネジメントのような形でビジネスする人が脚光を浴びています。人数的に言うと、5～10人くらいの若者が来て取り組んでいます。小規模事業を集積させることで、まちが多様に活発化するということを目指すのでしょうか。それこそ産業とすれば、今までにあるような林業、農業、水産業を活発させるイメージに聞こえます。どちらを目指すのでしょうか。

委員： 私は、小さな仕事が多く集まる形もいいと思います。岡山県の西粟倉村（にしあわくらそん）では、仕事を敢えて一つにまとめようとせず、魅力ある点がたくさんまちの中であって、お互いに競争したり、どこかに繋がったりしながら、まちの魅力を上げてました。

私も「仕事」と書いて「ちから」に一票です。

委員： 「ちから」と読ませると、第一次産業、第二次産業といった枠に捉われずに、底力を持っていることを強調することになるのではないのでしょうか。

委員： 新しい仕事を創出することも、元からある仕事を強くしていくことも、どちらもできるまちだと思います。

委員： 基本目標 1 は 1 回おきましょう。

●基本目標 2 について

委員： 「代替案のたたき台」では、町外から入ってくる人だけが対象になっていると感じます。「つながり」「南三陸のよさ」「コミュニティ」等の言葉を加えて欲しいです。元々いる人たちも重要というニュアンスも込められたらいいと思います。

委員： 「人々が」を「人々も」にするのはどうでしょうか。

委員： それであれば、冒頭に「私たちとともに」を加えて、「私たちとともに、未来を拓く人々が集うまちをつくります」としてもいいと思います。

委員： 「家族」と書いて「まち」と読ませるという意見がありました。「家族（まち）」よりは「家（まち）」にしてはどうでしょうか。

委員： 「私たちと～つくります」はおかしいです。

委員： 「私たちは、ともに未来を拓く人々が集うまちをつくります」としてはどうでしょうか。未来を拓く人々が集うまちづくりをしていくということですよね。来た人とともに未来をつくることは、その後の話になると思います。

委員： プラットフォームのイメージからは、「家族（まち）」もいいと思います。

委員： 場よりも人々が集まるコミュニティなので、「家族（まち）」の方がいいと思います。

事務局： 「集う家族（まち）」となると変ではないでしょうか。

委員： 「未来を拓く人とともに」にしましょうか。

委員： 「と」になると、集まった人たちとまちをつくることを言いたいのか、それとも人が集まるまちをつくることを言いたいのかという議論に戻ってしまいます。「が」と「と」では大きな違いがあります。

他市町村の基本目標では、色々なまちがあるけれどこのまちを選びますというニュアンスが強いように思います。

委員： 「選ぶ」より、「集う」の方がいいと思います。

委員： 「選ぶ」とすると、「家族（まち）」、「家（まち）」のいずれにしてもしっくり来ないと思います。

委員： 「ともに」を前に置くか、後ろに置くかだと思います。後ろに置くと、「私たちは、未来を拓く人々とともに集うまちをつくります」になります。この方が語感は和らぐと思いますし、それこそこれから来る人だけではなく、今町にいる人も含めたニュアンスがあります

委員： 人々とともに集ってまちを発展させていこうという意味合いであれば、その方がいいと思います。

委員： 「私たちは、未来を拓く人々とともに集う」とすると、私たち自身は未来を拓かないというニュアンスになっていませんか。私たち自身は未来を拓く人ではないけれど、未来を拓く人たちとともに集いますと捉えられるかもしれません。「ともに未来を拓く」であれば、私たち自身も未来を拓くという意味合いが伝わります。

事務局： 基本目標 2 はいったん仮置きにします。

●基本目標3について

委員： 子どもたちは未来を担うものですので、「代替案のたたき台」の案では当たり前すぎます。どういう未来を担うのかが大事です。

委員： 子どもたちが夢を持てるようなまちになるといいと思います。「私たちは、子どもたちが未来を描けるようなまちをつくります」はどうでしょうか。

事務局： 基本目標3は、出会い、結婚、妊娠、出産、子育ての項目です。

委員： 子どもたちが伸び伸び育てば、しっかり夢も持ってくれると思います。

委員： このまちが好きという子どもたちを育てることが大事です。

委員： それらの前提には子どもを産める環境や安心して子育てができる環境等、親にとっての安心感も重要になります。子どもたちが産まれないことには始まりません。未来を拓く若い人たちが集ったとしても、子どもたちが産まれてくる環境がなければ、結局皆ばらばらになってしまいます。

委員： まちの将来像の「いのちめぐるまち 南三陸」に向かわないといけないので、基本目標3は命をつなぐという目線が必要です。簡単に言えば、「私たちは、いのちをつなぐまちをつくります」でしょうか。

委員： シンプルでいいと思います。

事務局： 確かに「いのちをつなぐ」で出会い、結婚、妊娠、出産、子育ての全てを網羅できていると思います。

委員： もっと分かりやすく、「子ども」や「子育て」等の言葉が含まれている方がいいと思います。

委員： 「いのちをつなぐ」では、医療が充実しているまちに聞こえませんか。抽象的なので、色々な受け取り方ができてしまいます。

委員： 「いのちをつなぐ」はコンセプトであり、何を「つなぐ」のかを、どう表現するかが大事です。

事務局： 「子ども」や「子育て」等の言葉を含めたいという意見もありました。

- 委員： 「子ども」や「子育て」等の言葉は、基本的方向で具体的に示されます。何か繋ぐものがある、そのために基本的方向としてこういうことに取り組んでいくという構成です。
- 委員： 出会い、結婚、妊娠、出産、子育ての 4 つの項目を、一言で表現できる言葉があればいいです。
- 委員： 私は、結婚、妊娠、出産、子育ては基本的方向で触れて、基本的目標では、どんな子どもたちが育つまちがいいかを表現していいと思います。そこにまちのカラーが出ると思うからです。
- 委員： 前に話が出たことですが、そもそも本当に子どもたちが産まれる環境なのかも考えなければいけないと思います。そうすると、子育ての前提となるものがあるかもしれません。
- 委員： 私自身は、自分の家族だけで抱え込まないで、地域全員が自分の子どもを育ててくれるようなまちで子育てをしたいです。これを柔らかに表現できないでしょうか。
- 委員： そこは基本目標 2 に繋がります。「家族（まち）」は、まち全部が家族ということになります。
- 事務局： 繋がっていくことか、地域で子育てを支えることか、どういう子どもが育つのか、もしくはどのような子育てができるのか、これらのうちのどれを基本目標で示すのかということでしょうか。
- 委員： どういう子どもが育つのかということだと、私の希望としては生きる力のある子どもです。芯から強い子どもに育てて欲しいと思うので、例えば「私たちは、芯のある子どもたちを地域全体で育てます」がいいと思います。
- 委員： ストレートに、「私たちは、安全な子育てのできるまちをつくります」はどうでしょうか。それこそが、まさに言いたいことです。
- 委員： 私は「いのちをつなぐ」が気に入りました。地域全体で育てることも、命を繋いでいくことも、守っていくことに変わりないと思います。

- 委員： 「世代」と書いて「いのち」と読ませるのはどうでしょうか。年配の方も含めて、地域全体になります。
- 委員： 「地域全体」と書いて、「まちぐるみ」と読ませるのはどうでしょうか。「地域全体（まちぐるみ）で、世代（いのち）をつなぐ子どもを育てます」となります。
- 委員： 読み方を変えるのは、一番言いたい部分だけにした方が効果的だと思います。
- 事務局： 「私たちは、地域全体（まちぐるみで）、いのちをつなぐ子どもを育てます」ということでしょうか。
- 委員： 「私たちは」は必要ないです。「地域全体（まちぐるみ）」と一緒にです。
- 委員： どのような子どもに育ててほしいか、という視点が抜けています。
- 委員： 「私たちは、心豊かな子どもを育ていのちをつなぎます」はどうでしょうか。
- 委員： どのような子どもかについては、基本的方向で触れてはどうでしょうか。基本目標で具体的に書いてあると、子どもに対して何かしなければいけない印象を受けます。
- 委員： 「世代（いのち）をつなぐ」というのは、安心して子どもを産めるから世代が繋がるのであって、大きく捉えるのであれば、シンプルで一番いいと思います。
- 委員： シンプルにした場合、世代（いのち）が既にそのまちにあって、新たに町外から来る人にとっては、「世代（いのち）をつなぐまちをつくります」というのは、少し閉鎖的に聞こえるのではないかと思います。
- 委員： 世代がつながる要因は、誇りを持てることです。子ども自身もまちに愛着を持ち、誇りを持っていればまちを出ていかないと思います。
- 委員： 「まちに愛郷心を持った子どもを育てる」や「まちへの愛着を」のように具体的に書いた方がいいかもしれません。
- 委員： 具体化していくと、色々なことが大事な要素になります。南三陸らしさが「基本目標のつながりのイメージ図」だとすれば、より様々な人が、子育てをするならこのまちでしたいと思えるように、色々な要素を引くくるめられる表現がいいと思います。

委員： 一番言いたいことは、子どもたちが笑っていただけることです。

委員： 私も子どもの笑顔イメージしていました。「私たちは、子どもとともに笑っていただける」等はどうでしょうか。

委員： 「笑顔といのちをつなぐまち」や「笑顔をつなぐ」等、笑顔でいただけることを示すこともあるかと思います。

委員： 「子どもに笑顔をつなぐまちをつくります」ではどうでしょうか。

事務局： 1 回寝かせましょう。本日挙がったアイデアを皆さんにメール等で送りますので、次回までに意見を温めていただければと思います。次回は各論にも入りたいです。

<5. その他>

- ・事務局より、次回会議までの取り組み検討のための参考資料として資料「取り組みアイデアとなるキーワードを示したメモ」の説明を行った。
赤字→ 現在実施していないが、行政目線で、可能であるし実施するべきと考える取り組み
黒字、クエスチョンマーク無→ 現在実施している取り組み
黒字、クエスチョンマーク有→ ジャストアイデア（どうしようかという取り組み）
- ・次回会議（第 4 回）について、11 月 7 日（土）14:00 から開催することを確認した。
- ・次回会議後に、懇親会をカフェ「ちょこっと」にて開催することを確認した。

<6. 閉会>

会長： とても楽しい会議でした。次回は各論に入りたいので、事務局の方から事前にメールを送ります。基本目標は早めに決めて、各論に時間を取りましょう。

以上